

SATOYAMAの可能性

SATOYAMAづくりから得られるもの

日時 平成26年10月31日(金) 14:00~16:15

会場 石川県地場産業振興センター本館大ホール
(石川県金沢市鞍月2丁目1番地)

人の営みを通じて形成・維持されてきた二次的な自然環境は、多くの生き物にとって貴重な生育空間になっているほか、伝統文化や工芸、食文化などを育み、その豊かな恵みは、私たちの暮らしの基盤ともなっています。近年、生活様式や産業構造、さらには社会経済の変化により、自然に対する人の働きかけが縮小・撤退し、里山などの二次的な自然環境やその自然環境資源の持続的な利用が失われつつあります。企業やNPO、地域・都市住民など多様な主体が協働し、取組を進めていくことが必要となっています。

生物多様性や里山里海の恵みについて理解し、事業活動や私たちの生活の中でできることについて、考えてみませんか。



プログラム

14:00~14:05 開会・挨拶

14:05~14:35 基調講演

「地域・企業の協働によるSATOYAMAづくり」

講師 金沢大学 准教授 香坂 玲氏

14:45~15:45 事例発表

伊藤園、中越パルプ工業、コマツ、越前市

各企業・自治体から、SATOYAMAづくりの事例と取組の意義やメリット等について発表していただきます。

15:45~16:15 意見交換・質疑応答【セミナー終了後、17:00まで名刺交換会(予定)】

※都合によりプログラム内容が、変更になる場合がありますのでご了承下さい。

講師プロフィール



こうさか りょう

香坂 玲氏 金沢大学人間社会学域地域創造学類 准教授

東京大学農学部卒業、ドイツ・フライブルク大学の環境森林学部で博士号取得。国連の生物多様性条約事務局(カナダ・モントリオール)で勤務後、名古屋市立大学大学院を経て、2012年4月から現職。

COP10支援実行委員会アドバイザー、国連大学高等研究所の客員研究員として里山の評価などにも参画。東京都、石川県などの環境審議会委員、文部科学省、環境省、農水省、国土交通省などの生物多様性や遺伝資源の委員を務める。近著に「生物多様性と私たち」(岩波ジュニア新書)、「地域再生 逆境から生まれる新たな試み(岩波書店)」など。

主催：SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク、石川県

後援：国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)、中部地方環境事務所、北陸環境共生会議、(公社)いしかわ環境パートナーシップ県民会議、(公社)石川の森づくり推進協会